

『ハヶ岳南麓地域における農村集落の景観保全に関する考察』

山梨大学工学部土木環境工学科 ○学生会員 河辺 淳一
山梨大学工学部土木環境工学科 正会員 大山 勲

1. はじめに

伝統的な農村集落の風景は、古来の日本の歴史や文化を象徴するでもあり、将来的に保全していかなければならない文化遺産のひとつであると考え。一方、近年、美しい景観や、きれいな水や空気をもとめて都会から田舎に移住する、いわゆる「ターン」をする人が増加する傾向がある。この動きは過疎化に悩む農村集落にとって、人口減少を緩和する可能性を持つが、その開発方法を誤るとこれまでの美しい農村景観が破壊される可能性がある。ところで保全すべき農村集落景観とは何か。実際に現地に赴いて集落景観を観察したところ、集落の地形への当てはまり方と、土地利用境界領域の処理の仕方が特徴的であると感じられた。

2. 目的

そこで、本研究では、伝統的農村集落の景観の特徴を、集落の地形的な立地特性と、境界空間に着目し、その実態を定性的に明らかにし、保全すべき農村集落景観を考察することを目的とする。

3. 研究方法

研究対象

ハヶ岳南麓地域内に古くから自然発生的に成立した、伝統的農村集落を調査対象として選定する。調査した結果、96集落(小字)が調査対象集落として選定された。

分析方法

農村集落の景観を、集落外部から見た景観(外部景観)と、集落内部から見た景観(内部景観)に分けて分析する。

外部景観については、集落の立地する地形別に類型化し、その景観構造について定性的な把握を行う。

内部景観は、道路景観とし、道路景観の構成要素の見え方によって類型化し、道路と敷地との境界空間の処理の仕方を定性的に把握する。

4. 外部景観

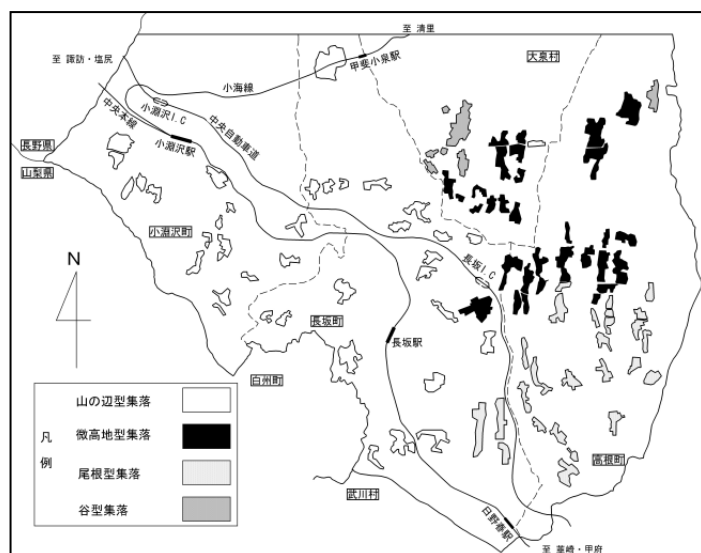
集落の外部景観は、主として「集落」と「集落を取り巻く水田や畑」、そして「山林」によって構成され、外部景観はこれらの位置関係によって決まる。これらの位置関係というのは地形に規定されると考えられるため、集落の地形への当てはまり方の形態別に外部景観についての調査を行ったところ、(表4-1)の4つのタイプの立地形態と景観に分類することができた。この4つの立地パターンの調査対象地域内での分布状況は、(図4-2)のような分布となっている。

(表4-1) 集落の立地形式と外部景観

立地形式	平面図	外部景観
山の辺型 34集落		
手前から、水田→畑→水路→道→庭→屋敷+付属屋(蔵)→森→山→空、という景観構造となる。		
微高地型 28集落		
微高地立地型集落は背後に山林を持たないため、その代償風景として屋敷林を持つ屋敷が多い。そのため手前から、水田→畑→水路→道→庭→屋敷+付属屋(蔵)→山→空、という構造となり、山の辺型集落と類似した景観となる。		
尾根型 27集落		
集落は東西斜面の森で囲まれる形となるため、集落外部からはあまり見えない。内部景観が重要となる。		
谷型 7集落		
集落を俯瞰する景観になり、建築物の屋根と農地とそれを取り囲む山林によって外部景観が構成される。		

キーワード: 農村、集落、景観、境界、立地

連絡先: 山梨県甲府市武田 4-3-11 山梨大学工学部土木環境工学科



(図 4-2) 集落の分布状況

長坂町と小淵沢町の地形は、山が多く、地形の起伏が大きいため、多くの集落が山の辺型立地となり、大泉村南部から高根町北部にかけては比較的傾斜の緩い高原的な立地で地形の起伏が少ないため、微高地型立地が多くなる。高根町南部から長坂町南部にかけては平地が少なく、尾根が南北方向に伸びる地形のため、尾根型立地となり、高根町北部と大泉村北部の山間地域には、谷型立地も見られる。

5. 内部景観

集落の内部景観は、集落内の道路からの景観である。それは「道」と「敷地内の建物配置と外構・庭木」の見え方によるもので、八ヶ岳南麓の農村集落では、特に敷地と道路の境界領域の処理の仕方が特徴的であった。

集落内部の道路景観は、道路方向と沿道建築物の配置によって規定され、(表 5-1)のように分類できる。これより、集落の内部景観は庭と建物による開放空間と閉鎖空間の繰り返しが特徴である。¹⁾ということが八ヶ岳南麓の農村集落でも当てはまる。

境界空間の処理の仕方は(写真 5-2)のようで、道路からの景観が多彩で豊かである。



(写真 5-2) 境界空間のしつらえ

(表 5-1) 沿道の形態と道路景観

道路方向	平面図	内部景観
集落南側東 西方向道路 からの景観		
集落内東西 方向道路から の景観		
集落内南北 方向道路から の景観		

6. まとめ

八ヶ岳南麓に立地する農村集落の外部景観を集落の地形への当てはまり方に着目し、内部景観を道路と敷地の境界空間の処理の仕方に着目して、その特徴を明らかにした。そこから、伝統的農村集落の景観の特徴は、集落の立地する自然環境に最も適した形で立地したことにより出来上がったものであると言え、このような形態を保全することが大切である。

[参考文献]

- 1) 稲崎昇一 他 (2002) 「農村集落における農家の建物配置がつくる道路空間特性の定量的把握」 第 29 回 関東支部技術研究発表会 講演概要集 P618,619